2025年5月25日(日)
中国新聞 SELECT 掲載

JICAだより

マダガスカル
松岡麻依子さん(38)
広島市安佐北区出身

笑顔であいさつ 心結ぶ

国際協力機構（JICA）海外協力隊として、農村地域で暮らす住民のニーズを探りながら、生活改善や収入向上につながる活動を現地住民と行っている。配属場所はマダガスカルの首都アンタナナリボから西へ90キロ、車で3時間のミアリナリボ。農業が主な産業のため田園風景が広がる素朴で自然豊かな田舎町だ。

ミアリナリボで生活していると、どこか懐かしいと感じる瞬間がある。初めて来たマダガスカルで懐かしいと思うなんてーと当初は驚いた。それでも、名前も知らない人とすれ違いざまにあいさつし合う様子が、広島での人との関わり方を思い出させてくれるからだと気づくと納得した。

「こんにちは（マナオーナ）」と笑顔であいさつすると、相手も「マナオーナ」と返してくれる。声は届かないが顔は認識できるくらいの距離で目が合えば笑顔で返してみる。すると相手も笑顔を浮かべる。大人も子どもも、笑顔はとてもすてきでかわいい。

生活改善に向け、住民と調理用のまきが節約できるかまど作りに挑戦する。前列右から3人目が筆者

言葉を交わさないときでも相手に笑顔を向けると、初対面でも、一期一会だったとしても分かり合えるような気がする。瞬時において互いの存在を認識し、心でつながるのだ。時間にすると1秒もない交流だが、その瞬間、私はミアリナリボにいると実感し、受け入れてもらっているのだと心が落ち着く。あいさつと笑顔の交流を続けるうちに、ミアリナリボは今ではすっかり私の地元になった。

JICA海外協力隊の活動の一つに日本の中高生を対象としたオンラインによる出前講座がある。私自身、数回経験したが、ある生徒から「マダガスカルは最貧国の一つですが、住民の幸福度はどうですか」と質問を受けたことがある。

地元の人は口癖のように「お金がない」と言うが、笑顔で家族を大切にし、助け合いながら暮らしている。幸福度は答えられなかったが、笑顔を向けてくれる人に日々、出会えることは明日への希望であり、心を豊かにしてくれると伝えた。地元の人たちの幸福を心から願っていることも。この思いが一人でも多くの人に伝わるとうれしい。